

鎌倉街道をたどる散策コース

地下鉄野並から相原郷へ

地下鉄野並駅⇒八劍社⇒嫁ヶ茶屋公園⇒桂林寺⇒古鳴海八幡社⇒鳴海製陶・アビタ⇒大塚古墳と赤塚古墳⇒新海池⇒後山墓地⇒浄蓮寺⇒諏訪社(約6km)

① 八劍社

野並が熱田神宮の宮司だった千秋家の領地であったことで、熱田神宮の分神として祀った社。目印として一番高い所に聖松(ひじりまつ)があった。

② 嫁ヶ茶屋公園

天正年間(1573～1592)に稲妻屋兵左衛門の茶屋があり、嫁が美人で名高かったという。
別の話では、平安朝のころ、鳴海長者成高の妻が、夫が亡くなった後この地に住んで茶屋を開いていた。美しい人だったので評判になった。

◎古鳴海

古くから鳴海の一部。室町時代に鎌倉街道沿いの住人が東海道沿いに移り住んだが、この集落の人はここに留まる人が多かった。

③ 桂林寺 (道標観音)

明暦2年(1656)真言宗の薬師堂として開山。平清盛が福原遷都の時に活躍した高鍬衆に下賜されたと伝えられる阿弥陀如来像が安置されている。敷地内には、『右なるみ 左あいはら』の道標観音がある。文政8年(1825)のもの。

④ 古鳴海八幡社

元は神明社。室町末期以前の創建。明治時代になって八幡社と合祀された。

⑤ 大塚古墳と赤塚古墳

大塚古墳は、新海池の西岸にあった赤塚古墳群の中心で、直径20m、横穴式石室。天井石は取り去られていた。昭和5年(1930)、赤塚古墳と共に調査され、人骨などが発掘された。
赤塚古墳は、大塚古墳の南方50mにあり、現在は住宅に囲まれて石室の基底石のみが残されている。人骨や金環・銀環・須恵器・鉄鍬(やじり)などが発掘された。共に古墳時代後期のもの。新海池周辺には、ほかにも数基の古墳があったが、すでに消滅した。

⑥ 新海池

江戸時代に入り新田開発が盛んになり、灌漑用水を必要とした。そのため、各地にため池が造成された。池の名は新海五平治の名にちなんだ。周囲1,685m、面積10万㎡の池で緑区で一番大きい。近年周囲が整備され、区民の憩いの場となっている。

地獄沢とは

新海池の下に、かつて地獄沢と呼ばれる所があった。10世紀の終わり、尾張国司・藤原元命(もとなが)は鳴海の女のもとに通っていたが、ある日卒塔婆を橋のようにして小川を渡ることがあった。当然本人も伴の者も罰を受けたとの故事から地獄沢と名付けられた。
如意寺の寺伝には、元命の臣 藤原為家は改倭して如意寺を創建したとある。
※国司の圧政として悪名高い藤原元命は、尾張の百姓等から非行31ヶ条を朝廷に提訴され解任された。

観音堂・弘法堂

緑市民病院交差点から相原郷へ向かう下り坂の途中に祀られていた弥陀堂を弘法堂と名を変えた。観音堂は、明治初年に浄蓮寺山門隣接地にあった。

⑦ 後山墓地 (道標地藏)

相原郷の墓地として古くからある。この南側の道も鎌倉街道だろう。北側に、早稲屋の三差路にあった道標がある。『右 みや道』『左 なるみ道』とあることから、東向きに置かれていたと推測される。

⑧ 浄蓮寺

今川義元の家来本多慶念が中島橋近くに草庵を建て、光泉坊といった。天正年間に現在地に移った。

⑨ 諏訪社

創建は不明。この社の境内を東西に貫く鎌倉街道があることから、かなり古い創建だったと考えられる。当初は熊野権現を祀っていたが、武士の時代になり戦いの神として信仰の厚い諏訪明神を勧請した。
そのため、熊野社は約5km東の山頂に移転した。

◎相原郷

『栗飯原』と表記される時代もあった。
『郷』とつくので集落としては、奈良時代にはあったと思われる。江戸時代初期以降、明治初期まで、鳴海村から独立していた。

史跡・文化財・道しるべなど散策のご案内

相原郷から二村山へ

諏訪社⇒庚申堂⇒砂田橋⇒ハツ尾八幡社と蔵王権現⇒オヒジリ様⇒濁池⇒二村山(頼朝歌碑・地藏堂・袈裟斬り地藏尊)⇒藤田医科大学バス停(約6km)

諏訪社の最寄りバス停：市バス「緑保健センター」

① 庚申堂

白土道の一部でもあり、室町から江戸時代にかけての鎌倉街道の道筋だといわれている。手水鉢には「天保十二年(1841)丑三月」と刻まれている。

鴻目目の地藏尊

かつては鎌倉街道と白土道の分かれ口に置かれていてドンドン塚近くにあり、『右くつかげ道 左あすけ道』と刻まれていたが、伊勢湾台風で流された。その後、二代目の地藏が置かれているが道しるべにはなっていない。環状2号線工事でここに置かれた。

② 砂田橋

扇川に架かる橋で、元の位置は少し下流で、石神堂より右岸を遡上して鳥澄で尾崎山へ渡ってハツ松へと通じていた。宅地開発が進んだことから蛇行していた川筋の改修が行われ、昭和53年(1978)にこの橋が竣工した。

◎扇川

かつての鳴海のほとんどの地域や有松・桶狭間・大高の水を集めている川。下流では天白川と合流して伊勢湾に至る。
今の諏訪社の地にあった熊野社の祭礼で稚児が川に落とした舞扇の美しさに因むとの伝えがある。黒末川ともいわれたこともある。全長約9.8km。水源は、白土大池。

③ ハツ尾八幡社と蔵王権現

古老によれば扇川に流されてきた蔵王権現像を山の麓に祀ったもので、蔵王堂だった。蔵王信仰は旅の守護神でもあり、鎌倉街道を旅する人が立ち寄った。
ハツ松と尾崎山の頭文字をとって、敷田の氏神として『ハツ尾』となった。

④ オヒジリ様 (聖観音菩薩石像)

ここは頂上近くである。道端にこの石像があり、ここを通る旅人が安全を祈って建立したものだろう。『天保七(1836)丙申三月』の銘がある。
自動車交通が頻繁となり近くの住宅地に移転した。

◎愛知用水

大きな川がなく渇水に悩まされていた主に知多郡の人々の願いが叶い、大事業の愛知用水が昭和50年代に完成した。木曽川から取り入れられた水は、日間賀島や篠島・佐久島まで届いた。今までため池の水に頼っていた人たちは大いに喜んだ。今では工業用水としての利用が大部分を占めている。

⑤ 濁池

約42,000㎡の大きなため池。鎌倉街道は池の北側を通っていたが、今は南側の堤防しか通れない。
伝説によれば、盗賊の熊坂長範が人を斬った刀をここで洗ったと言われているところ。見る見るうちに血で濁ってしまったことからこの名がついた。

⑥ 二村山 (頼朝歌碑・地藏堂・袈裟斬り地藏尊)

古くから旅人が利用した所で、標高72m。景勝地として名高い。平安時代以降旅人の歌に詠まれる。
更級日記(1060)・海道記(1223)・東関紀行(1242)・十六夜日記(1279)などの文学作品や阿仏尼・源頼朝などの歌に詠まれて有名である。

峠には頼朝の歌碑がある

よそに見し をさゝが上の白露を

たもとにかくる 二村の山

源 頼朝

源頼朝がこの地を通ったのは建久元年(1190)10月、霧の季節であった。初めての出京に歌枕として名高い二村山は印象が深かったようである。頼朝の詠歌として続古今和歌集に残っている。

地藏堂には三体の地藏が安置されている。向かって左に頭の無い地藏尊があり、首無し地藏尊と言われている。背面に『大同二(807)』と刻まれている。他の二体の地藏は、江戸時代元文3年(1738)と明和3年(1766)のものである。

頂上付近まで進むと、袈裟斬り地藏尊がある。いつのころか旅人が盗賊熊坂長範に襲われた時に身代わりとなって斬られたことから身代わり地藏尊ともいわれている。肩から斜めに切り分けられている。

参考資料

緑区誌・名古屋史シリーズ緑区の歴史・名古屋市の史跡と文化財・名古屋市史・愛知百科事典